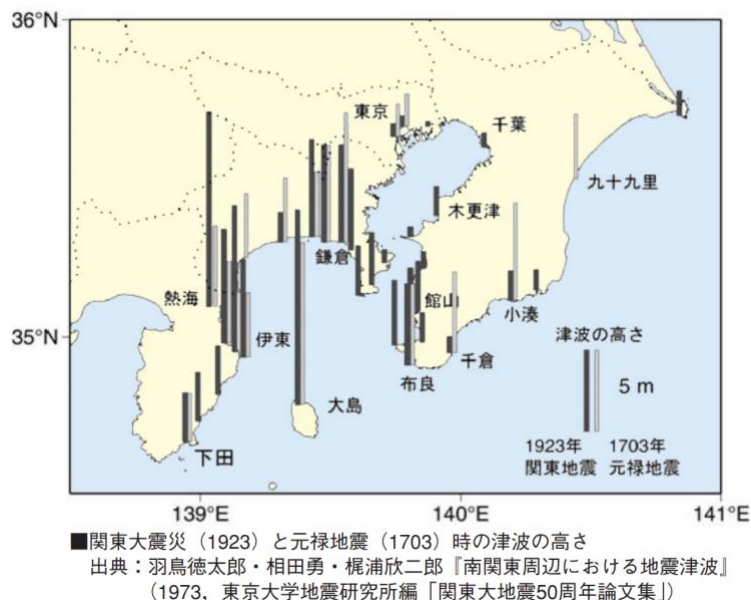


関東大震災の津波について

先週は関東大震災後の余震活動について触れましたが、今週はあまり知られていない津波について少しまとめてお知らせしたいと思います。実は関東大震災では、都内の火災被害のみが大きくクローズアップされましたが、相模湾では津波による大きな被害が出ていたのです。



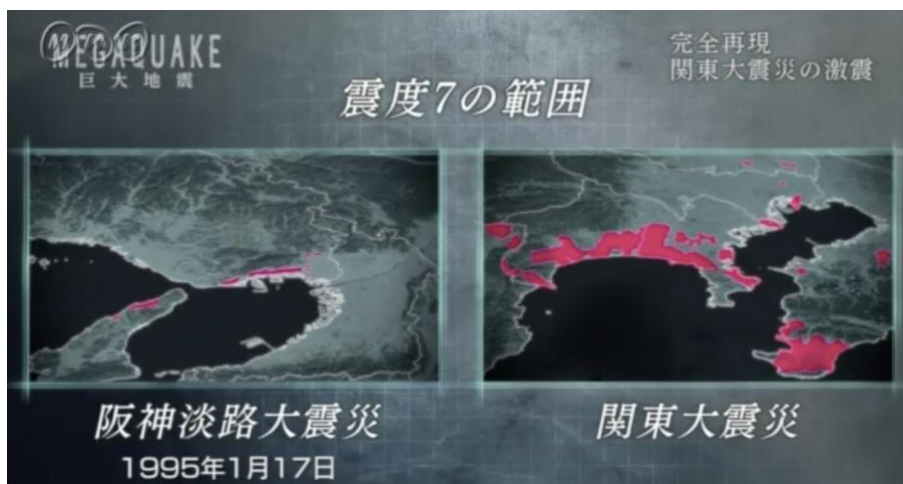
次の動画は鎌倉市が公開しているものですが、自治体のものとしてはかなり良いものと思います。時間は14分ほどありますが、1.5倍速でご覧になっても問題無いと思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=sLQJjymCZl8>

また地震像そのものについては 2013 年の NHK スペシャルの映像が現在でも公開されております。こちらは4分ほどの映像ですので、ぜひご覧下さい。

https://www2.nhk.or.jp/archives/311shogen/disaster_records/detail.cgi?das_id=D0010060016_00000

阪神大震災では“震災の帯”という震度7を記録した地域が話題となりましたが、実は関東大震災ではそれとは比較にならない程、広い地域が震度7に襲われていたのです。関東大震災は東京の地震ではなく、神奈川を中心とした地震だったのです。以下は上記 NHK のアーカイブのキャプチャ画像です。

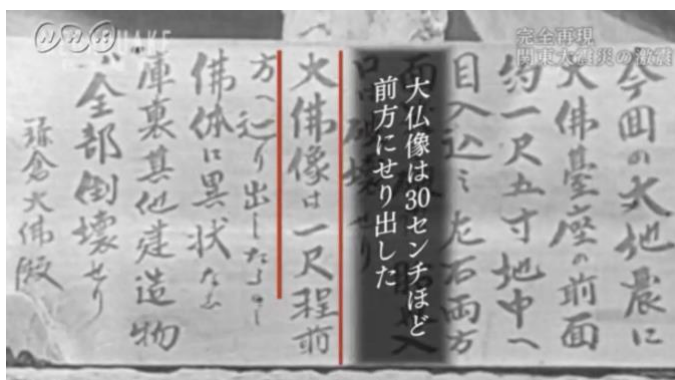




重要なのは、関東大震災のような相模トラフの沈み込みに伴って発生する津波は、東日本大震災と異なり、海溝(相模トラフ)が海岸から近いので、地震発生後10分以内に海岸へ到達するのです(ちなみに東日本大震災では20分以上の猶予がありました)。

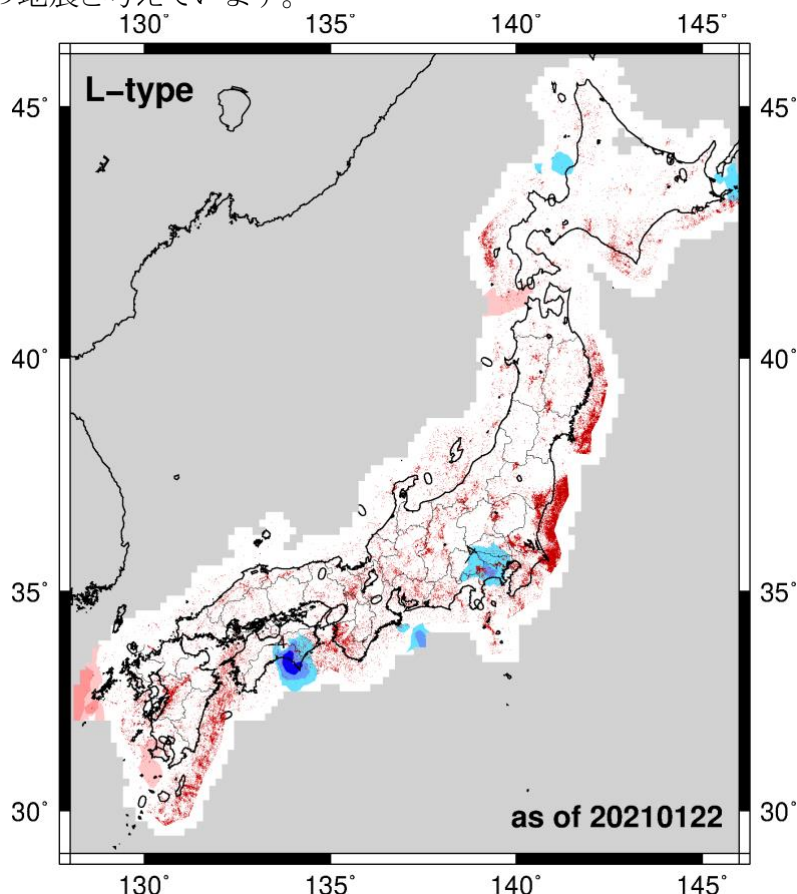
ここで一つ気がついたのは、相模”トラフ”という名称です。相模”海溝”となっていないため、目の前に日本海溝のような沈み込み帯が存在している事をご存知ない住民の方もいらっしゃるのではないかと思います。トラフも海溝も地球科学的には差は無く、防災知識の啓発にはネーミングというのは重要な役割を果たすのではないのでしょうか。

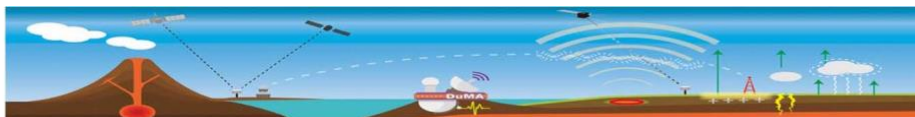
以下のキャプチャ画面も上記 NHK のアーカイブからのものです。



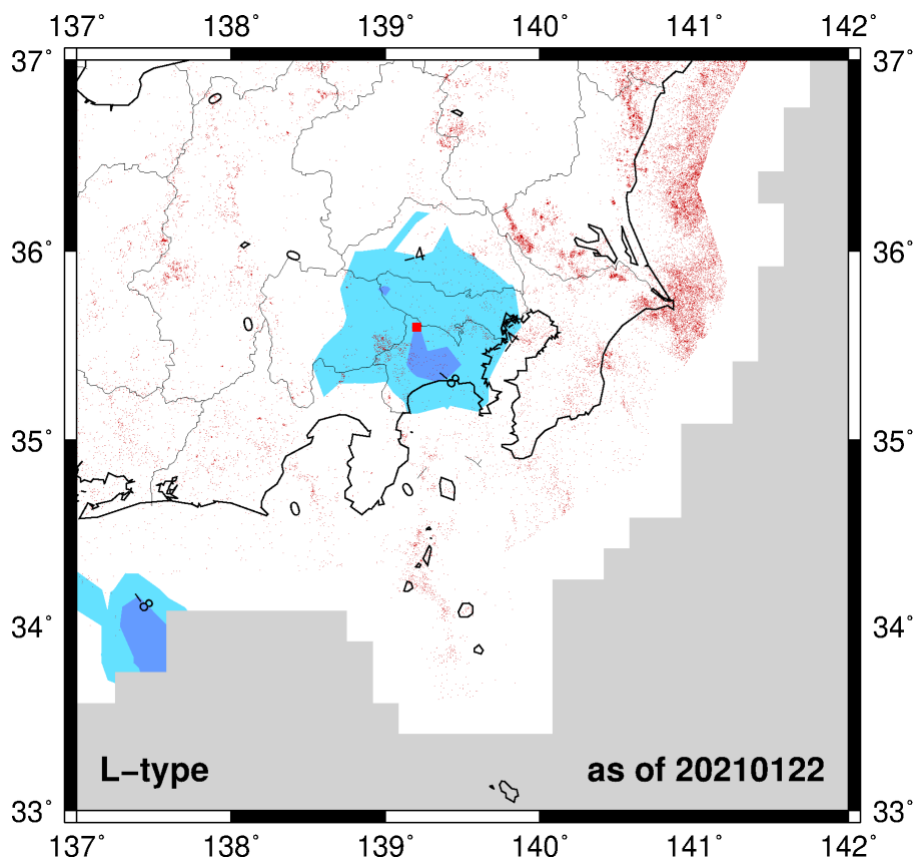
日本列島陸域の地下天気図®

12月21日のニュースレターに引き続き、日本列島の陸域に特化した地下天気図解析です。今週は1月22日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。この地下天気図解析では対象マグニチュードは一応 M6 から M7程度の地震と考えています。





12月21日のニュースレターと大局的なパターンは変化していない事がわかりました。ただ関東地方の静穏化は若干解消の方向に向かっているようです。逆に四国の静穏化異常はまだ進んでいるという状況のようです。



参考:2020年12月17日時点の同地域の地下天気図

